

# Spiritualism News Letter

2005  
新年号  
(第28号)  
1月1日発行

スピリチュアリズム・ニューズレター

発行/スピリチュアリズム・サークル 心の道場  
発行人/小池里予  
〒441-3141 愛知県豊橋市大岩町北山468-1  
TEL 0532-41-0537 FAX 0532-41-8257  
ホームページアドレス <http://www5a.biglobe.ne.jp/~spk/>

今号の内容

- ・人間の霊的成長を支配する神の摂理（法則）  
神の摂理への絶対信仰が、スピリチュアリズムの基本です…………… 1
- ・アメリカ大統領選挙にみるアメリカ社会の本質と、  
米国でのスピリチュアリズムの展開…………… 22
- ・シルバーバーチの故郷を訪ねて——英国訪問の報告…………… 27

## 人間の霊的成長を支配する神の摂理（法則） 神の摂理への絶対信仰が、スピリチュアリズムの基本です

シルバーバーチは、スピリチュアリズムは「神」と「神の摂理」に対する絶対信仰であると繰り返し述べています。スピリチュアリズムは「神の摂理」への信仰であり、「神の摂理」は、スピリチュアリストにとって最も大切な信仰対象なのです。

私達がスピリチュアリズムという信仰実践の道を歩むに際しては、当然のことですが、神の摂理について正しく知らなければなりません。神の摂理に対する正しい理解は、信仰するうえで絶対に必要なことなのです。しかし実際には、知っているようであまり知らなかったというのが大半の人々の実情では

ないでしょうか。

今回は、神の摂理について学び、その重要性をもう一度確認することにします。私達が地上に生まれた目的は、霊的成長に尽きると言っても過言ではありません。霊的成長は、人間にとって最も重要なことであり、それは「神の摂理の支配」のもとでなされるようになっていきます。

今回のニューズレターでは、私達スピリチュアリストにとって極めて重要な「霊的成長に関する摂理」について見ていくことにします。内容は次のようになっています。

- 1 || スピリチュアリズムの神観の特徴 —— 神の摂理による支配の重視
- 2 || 「神は愛なり」の間違った解釈
- 3 || 地上人を支配する、さまざまな次元の法則
- 4 || 霊的成長に関する摂理〈1〉 —— 「永遠の霊的進化の法則」
- 5 || 霊的成長に関する摂理〈2〉 —— 「霊優位（霊主肉従）の法則」
- 6 || 霊的成長に関する摂理〈3〉 —— 「利他性（利他愛）の法則」
- 7 || 霊的成長に関する摂理〈4〉 —— 「自由意志の法則」
- 8 || 霊的成長に関する摂理〈5〉 —— 「因果（カルマ）の法則」
- 9 || 霊的成長に関する摂理〈6〉 —— 「自己責任（自業自得）の法則」
- 10 || 霊的成長に関する摂理〈7〉 —— 「償い（苦しみによるカルマ清算）の法則」
- 11 || 霊的成長に関する摂理〈8〉 —— 「自己犠牲の法則（代価の法則）」
- 12 || 霊的成長に関する摂理〈9〉 —— 「苦難の法則（光と陰の対照の法則）」
- 13 || 霊的成長に関する摂理の相互関係と全体像
- 14 || まとめ —— 日常生活で何をすべきか？

## 1 || スピリチュアリズムの神観の特徴 ——神の摂理による支配の重視

### スピリチュアリズムの神観の特徴

#### ——「法則の神」の強調

スピリチュアリズムは「神」を信仰対象としますが、それだけでなく「神の摂理」も信仰対象とします。スピリチュアリズムの神観の特徴は、神の摂理による支配を強調する点にあります。シルバーバーチの「神は法則です」という言葉は、それを端的に表しています。

一般の宗教では「神は愛なり」と言うのが普通ですが、スピリチュアリズムでは真っ先に「神は法則なり」と言うのです。もちろんスピリチュアリズムでも神は愛の存在であることは認めますが、どこまでも神の法則性を前面に出して主張します。このように神の摂理を強調する点が、従来の宗教とスピリチュアリズムの根本的な違いです。実はここに極めて重大な理由があるのです。

神の摂理は、全霊界・全宇宙を支配し、いかなる存在もこの支配から逃れることはできません。摂理の支配に疑いを抱いたり、これを無視する霊界人はいません。霊界では、神の摂理に忠実に従って生きることは常識となっています。霊界では摂理に絶対服従する信仰が行き渡り、これが霊界のすべての霊達の生き方の指針となり、人生哲学・価値観となっています。スピリチュアリズムは、そうした霊界を支配する唯一の宗教を、地上にもたらそうとするプロジェクトなのです。

これまでの宗教からすると、スピリチュアリズムはあまりにもラジカルな神観を主張していますが、その理由を、スピリチュアリストはしっかりと知らなければなりません。そうでなければ、スピリチュアリズムの本質を正しく理解したことになるのではありません。

### 神は摂理を通じて、間接的に人間と係わりを持つ

神の造られた摂理・法則が、人間をはじめとする宇宙のすべてを支配しているという事実は、神が人間に対して直接の係わりを持つことはないということの意味しています。

従来の宗教では、人々は神に自分の願いを訴え、何とか聞き届けてもらおうとしてきました。こうした信仰は、神が直接、自分達と係わりを持ち、個人的に手を差し伸べてくれることを期待するところから生じたものです。しかし、神が一人一人の人間の声を聞き入れ、それに対して特別の配慮をするようなことは決してありません。

神はどこまでも、自ら造った摂理を通じて間接的に人間と係わりを持つようにされました。そのため人間は、直接神を見ることも、神の手に触れることもできません。どれほど必死に祈っても、神が個人的な願い事を聞き入れるようなことはありません。いかに人間が苦しんでいても、神が直接手を差し伸べるようなことはないのです。

人類がこれまで錯覚してきた重要な事実を、スピリチュアリズムは明らかにしました。スピリチュアリストは、まずこの点をしっかりと押さえておかなければなりません。宗教といえば「神」となりますが、その神について、スピリチュアリズムは初めて真実を人類の前に示したのです。

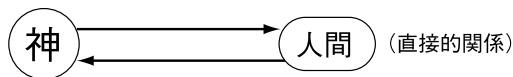
大霊とは法則なのです。あなたが正しいことをすれば、自動的にあなたは自然法則と調和するのです。窮地に陥ったあなた一人のために、どこか偉そうな人間的な神さまが総力をあげて救いに来てくれるような図を想像してはなりません。  
(最高の福音・53)



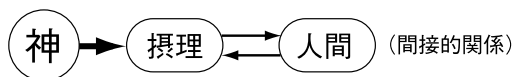
宇宙の大霊は、いかなることにも特別の干渉はいたしません。法則、大自然の摂理として働き、これからも永遠に存在し続けます。摂理の働きを中止したり干渉したりする必要性が生じるような事態は一度たりとも生じておりませんし、これからも絶対に起きません。世の中の出来事は自然の摂理によって支配されており、大霊による特別の干渉は必要ありません。

(最高の福音・52～53)

従来宗教



スピリチュアリズム



**神は法則を通じて顕現することで、**

**万人の親たる資格を持つ**

このような神の間接支配というシステムは、ひたすら自分への慰めや特別な配慮を願う人々には期待はずれとなります。しかし、この機械的な摂理の支配システムがあるために、神は完全な“霊的親”としての資格を持つことになるのです。「完全公平」「完全平等」の親として、全人類に君臨することができるのです。

完璧な法則の支配下に置かれているために、すべての人間は一人の例外もなく平等に扱われることになります。法則の支配という完全平等のシステムによって——「神の愛はすべての人間に等しく注がれる」ようになっています。誰も神から特別な配慮を与えられることはない代りに、「全員が平等な愛を受けられる」ようになっています。

これまで地上人類は、こうした神の一番本質的な内容を理解することができなかつたために間違っ

た信仰を続けてきました。一生懸命に信仰すればするほど神から特別の愛を受けられると錯覚し、的外れの努力をしてきました。今日まで言われてきた信仰心の篤い人間とは、こうした的外れの努力を必死にする人のことだったのです。そしてスピリチュアリズムの中にも、他の宗教と同じように間違った神認識をしている人々が多く見られます。

もしも干渉が有り得ることになったら、大霊が大霊でなくなります。完全でないことになり、混乱が生じます。

(最高の福音・53)

**「神は法則なり」の事実にした信仰とは**

繰り返しますが、神が摂理を通じて人間をはじめとする万物を支配しているという事実は、「神に特別な救いや配慮を願っても無駄である」ということを意味しています。どれほど神に祈り求めても、神から特別に愛されることはないし、奇跡も起こらないということです。

こうした神の摂理の厳粛な支配のもとで人間が取るべき姿勢は——「自分の方から摂理に合わせていく」ということです。まさにこれこそが「神への正しい対し方」「正しい信仰」なのです。賢明な人間は自分自身を摂理に合わせてようとします。一方、愚かな人間は摂理を変えてほしいとがき、無駄な努力をして疲れ果てることとなります。

スピリチュアリズムとは、神の摂理を正しく理解し、その摂理に自らを積極的に合わせようとするシンプルな信仰です。スピリチュアリズムは、神に特別な愛や配慮・奇跡等を願わない信仰です。神の摂理の絶対性に信頼を置き、自分自身を忠実に従わせようとする宗教なのです。この点で、スピリチュアリズムと従来宗教は根本的に異なっています。

賢明な人間は、摂理に文句を言う前に自分から神の無限の愛と叡智に合わせていくようになります。(シルバーバーチ1・111)

### 神を知るとは、神の法則を知ること

神は法則を通じて、人間の前に間接的に姿を現します。私達人間にとって神の法則を知るとは、神の姿の一部分(属性)を知ることになるのです。摂理に見られる絶対性、機械的な正確性・不変性・完全平等性は、神がそうした要素を持った存在であることを示しています。

私達は、神の無限の要素・属性のほんの一部分を、摂理を観察することによって知ることができるのです。神が万物を支配するために造られた摂理を理解することは、部分的ではあっても神を理解することなのです。

私たちの使命は“神とは何か”を明らかにすることですが、それは、神すなわち大霊の摂理を明らかにする以外に方法はありません。

(シルバーバーチは語る・93～94)

\*シルバーバーチはたびたび「神は法則です」と述べていますが、もしその言葉を鵜呑みにしてしまうと大きな誤解をすることになります。神は「創造神」でないことになってしまいます。シルバーバーチの次のような言葉に注目しなければなりません——「その法則を支配しているのが神だからです。神とは、その自然法則と同時にそれを作動する仕組みをもこしらえた無限なる知性です。」(シルバーバーチ11・107)

ここには、法則は神によって造られたものであることが述べられています。すなわち法則は神そのものではなく、神の属性・創造物であるということなのです。シルバーバーチの神観は、どこまでも「創造神論」の立場に立っています。

シルバーバーチが誤解を招くような言い方をしてまで「神の法則性」を強調したのは、従来の宗教の間違った神認識と間違った神への信仰を正そうとしたからなのです。



## 2 || 「神は愛なり」の間違った解釈

「神は愛なり」を間違って解釈してきた、

### これまでの地上の宗教

多くの宗教が言ってきた「神は愛なり」は、確かに事実なのです。スピリチュアリズムでも、神が愛の存在であることを主張します。

しかし、これまで地上の宗教は「神は愛なり」の真意を間違って解釈してきました。人々は「愛の神」に、苦しむ人間への救いを期待し、特別な配慮と奇跡を願ってきました。自分や自分のグループ、自分の教団、自国に対する特別な援助と救いを求めてきました。地上人は自分達に都合のいいような神を勝手に思い描き、事実から大きく懸け離れた神のイメージをつくり上げ、これを信仰対象としてきました。

人間的な感情をそなえた神は、人間がこしらえた神以外には存在しません。

(霊的新時代の到来・77)

### 的外れの信仰をしてきた地上の宗教

これまでの地上の宗教の神観の間違いを一言で言うならば、神の摂理に対して無知であったということです。そのために人々は、神は信仰心の篤い人間に直接手を差し伸べると錯覚してきたのです。熱心に祈りを捧げれば、神の好意と同情と特別な愛情が得られると勘違いしてきました。そして21世紀の現在も、多くの熱心な信仰者よって的外れな祈りが捧げられています。

神の造られた摂理は、人間サイドのいかなる事情によっても左右されることはありません。神が宇宙・万物の支配のために造られた摂理は、一つの狂いもなく冷酷に作動します。神の摂理は、人間の訴え・願い・祈りとは無関係に機械的な正確さを持って働きます。そこには人間的な感情の入る余地は全くありません。

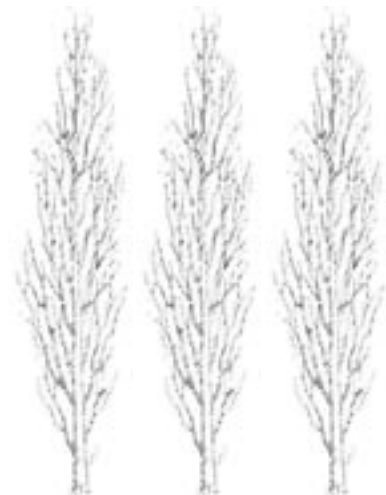
大霊による直接の関与などというものは絶対にありません。あなた方が想像なさるような意味での人間的な存在ではないのです。

(霊的新時代の到来・46)

私がお伝えしようとしている概念は、全能にして慈悲にあふれ、完全にして無限なる存在でありながら、地上の人間がとかく想像しがちな“人間神”的な要素のない神です。

(最高の福音・165)

神の造られた摂理が、人間の事情とは無関係に運行されるという厳粛な事実を前にしたとき、これまで地上の宗教・信仰者が当たり前にしてきた祈りと信仰が、いかに的外れなものであったのかが明らかにされます。全く無駄なこと、何の意味もないことを地上人類は現在まで延々と続けてきたのです。



## 「神の愛」は法則の後ろに隠れて存在する

神は摂理を通じて、人間をはじめとする宇宙と霊界の万物を支配しようとされました。神は常に法則として人間の前に姿を現します。それを人間の側から見れば、神は何一つ優しさのない冷たい存在ということになります。人間サイドからは、優しい神の姿は見えてきません。神は間違いなく愛の存在ですが、その愛は摂理の後ろに隠れたままなのです。

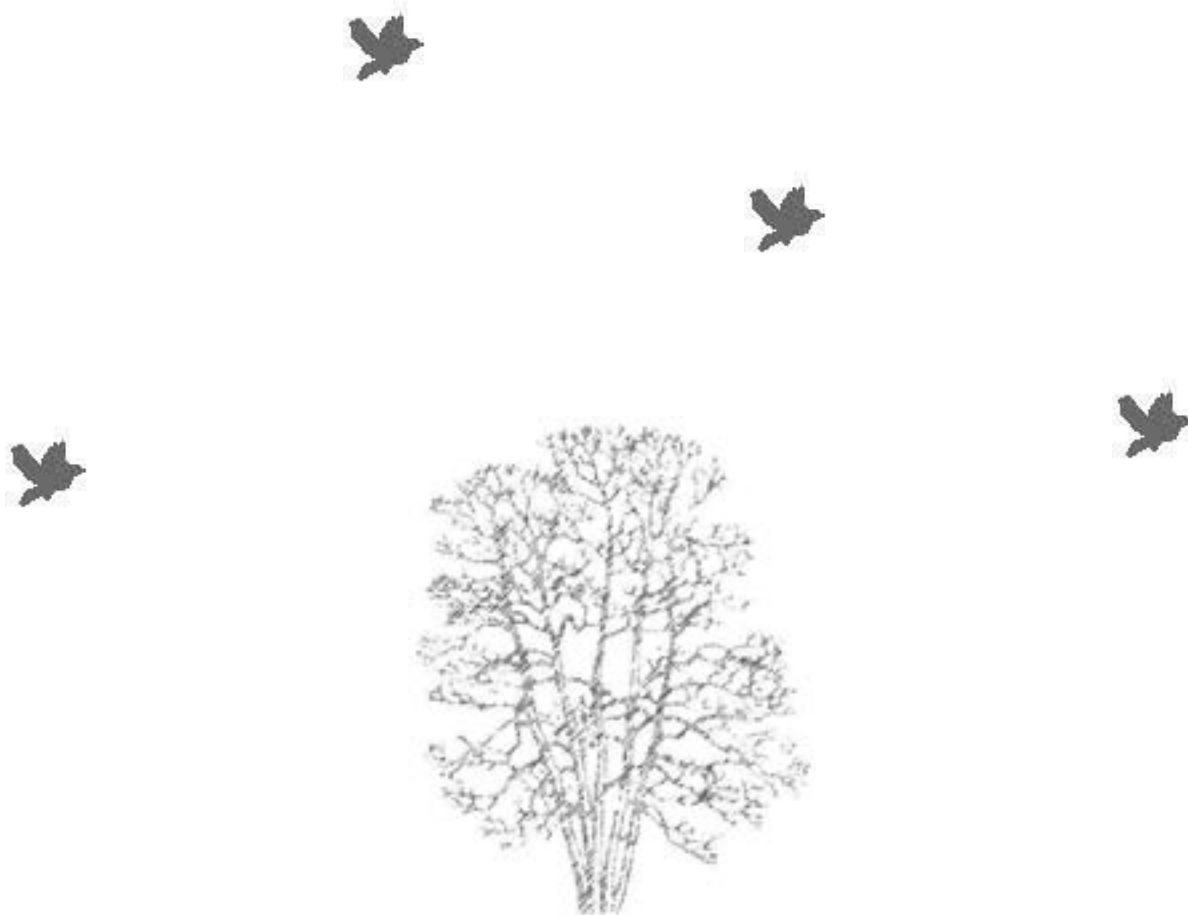
これまで地上人類は、ひたすら優しい「愛の神」を期待してきました。愛の神が特別な慈悲と許しと癒しをともなって出現することを願い、必死に信仰してきました。しかし、人間が期待するような愛の存在として神が姿を現すことはありません。人間がどれほど神に祈り求めても、神は冷酷な摂理（法則）としてしか現れません。

このことは、慈悲の要素が摂理の中に配剤されていることを意味します。ただ、その慈悲性に富む摂理にも機械性があることを忘れてはなりません。いかなる力をもってしても、因果律の働きに干渉することはできないという意味での機械性です。

(最高の福音・164)

神が慈悲深いということ、どこのどなたが説いておられるのか知りませんが、神とは摂理のことです。究極においては慈悲深い配慮が行きわたっておりますが……

(最高の福音・47)



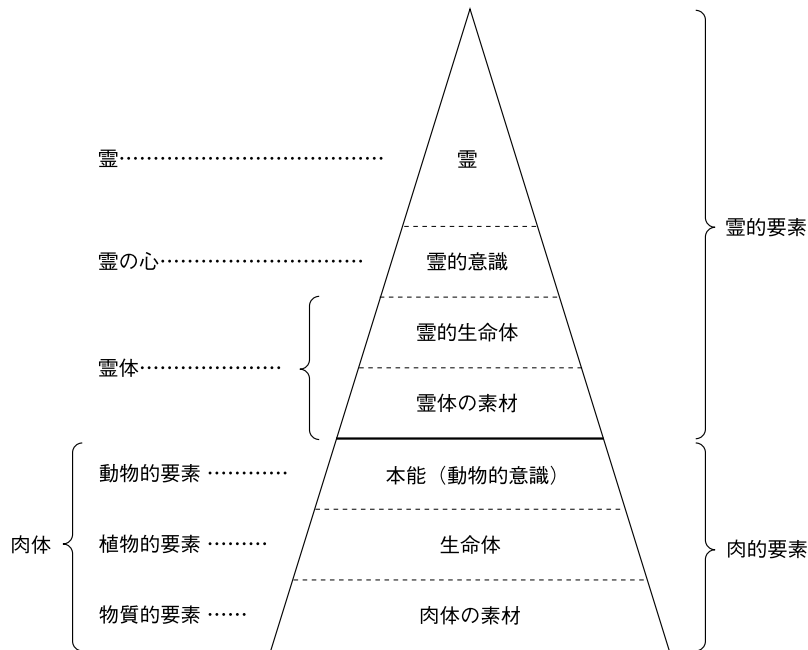
### 3 || 地上人を支配する、 さまざまな次元の法則

#### 人間を支配する、さまざまな法則

人間は物質世界における進化の頂点に位置しています。人間の肉体は、地上の生命体の進化の最上部に位置しますが、それは人間の肉体が、地球上の

すべての存在物の要素を重層的に内蔵している事実によって明らかにされます。人間の肉体には、物質的・植物的・動物的なすべての要素が含まれています。そして人間には、さらに霊・霊的意識・霊的身体・霊的素材といった霊的要素が加わっています。

こうした人間を構成するそれぞれの要素が、神の摂理によって支配されているのです。

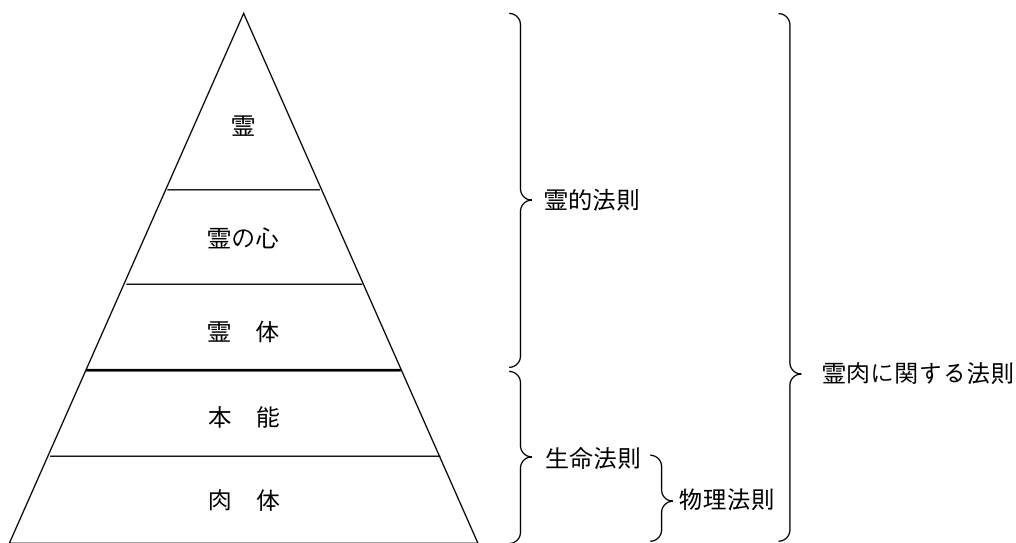


人間の肉体を構成する素材は、さまざまな鉱物元素です。この物質という素材界は、「物質法則・物理法則」によって支配されています。また人間の肉体は、単なる物質の寄せ集めだけの存在ではなく、生命が与えられています。したがって肉体は生命体として、他の生命体同様に、神の定めた「生命法則」の支配を受け、誕生・成長・老化・死という一生のプロセスを踏むようになっています。人間の肉体は生命法則の支配を受けているために、いつか必ず死を迎えなければなりません。また人間の肉体は、動物の肉体と同様に運動機能を持ち、自由性・活動性が付与されています。そして

「本能」という低次元の意識を持ち、これが神の法則的支配を受けて、肉体の生存・維持が図られるようになっています。

このような肉体的要素に、霊・霊の心（霊的意識）・霊体が付け加わって、人間ができ上がっていますが、そうした霊的構成要素についても「霊的法則」が働いています。

ここに挙げた人間を構成するさまざまな要素に対して、次元の異なる摂理が支配しています。さらには、霊的領域と肉体的領域の2つの異次元領域にまたがる法則も存在します。これが「霊肉に関する法則」です。



### 人間の霊的成長を支配する法則

私達人間にとって一番重要な法則は「霊的成長」に関する法則です。神が人間に永遠の個性を与えたのは、人間に内在する神の分霊である「霊」を永遠に進化させていくためです。人間が地上世界に生まれたのは、霊的成長のためなのです。霊的存在として創造された人間にとって、霊的成長こそがすべてであると言っても過言ではありません。霊的成長は、地上人生においても、霊界での人生においても究極の目的となっているのです。

人間の肉体の成長が神の摂理に従ってなされるように、「霊的成長」もやはり神の摂理の支配のもとで進められます。霊的成長とは、人間の霊的構成要素の進化・向上のことです。特に「霊」と「霊の心（霊的意識）」の進化・向上を意味します。

では、霊的成長に関係する摂理とは、どのようなものなのでしょうか。結論を言えば、それは以下の9つの摂理（法則）のことです。次から、それらを見つめていくことにします。





## 4 || 靈的成長に関する摂理〈1〉 ——「永遠の靈的進化の法則」

### 永遠の個別的な存在として造られた人間

靈の大海から取り出された一滴が、分靈として個別性を持つようになりました。これが人間です。そして靈的進化の道の第一歩を踏み出すこととなります。いったん個別的な存在となった人間の靈は、二度と靈の大海に戻ることはありません。何億、何十億年、そして永遠に個として存在し続けます。進化の暁には、ニルバーナに至って神と融合一体化するというインド思想は間違っています。

現在、地球上には何十万種以上ともいわれる生命体が存在しています。その生命体のすべてが神によって創造されましたが、その中で人間のみが、死後も個別的な存在として生き続けることとなります。人間はこの意味で、極めて特殊な存在と言えるのです。

### 永遠の靈的進化の道

大靈（神）の分靈として個別性を与えられた人間は、永遠に進化の道をたどるように定められています。この神の定めた決まりを——「永遠の靈的進化（成長）の法則」と呼びます。靈的進化は、すべての人間にとっての宿命です。

この進化のプロセスは、地上人生の間ばかりでなく、死後靈界に行っても永遠に続きます。どこまで行っても進化、進化の連続です。私達人間は、終わりなき進化のプロセスをたどる存在として造られているのです。未来永劫、進歩（成長）の道を歩み続けるように方向づけられているということです。「永遠の靈的進化の法則」は、人間の靈的成長に関する最も重大で根源的な法則です。

### シルバーバーチにとっての“大きな謎”

シルバーバーチはあるときサークルのメンバーから、「あなたご自身にとって何かとても重大で、しかも解答が得られずにいる難問をお持ちですか」という質問を受けて、次のように答えています。

——「進化が永遠に続くという、なぜそういうおしまいのない計画を大靈がお立てになったのか、そのところが分かりません。いろいろと私なりに考え、また助言も得ておりますが、正直いって、これまでに得たかぎりの解答には得心がいかずにおります。」

（靈的新時代の到来・122）

このシルバーバーチのあまりにも率直な答えには驚かされますが、同時にシルバーバーチのような高級靈にも、神の定めた「永遠の進化」という法則は理解できないほどの深い謎であることが分かります。肉体を持って靈性の鈍くなった私達に、その意味が理解できなくても当然です。神の御心の内に存在する深い理由など、私達地上人には到底知ることはできません。

とはいつても神が造られた摂理に忠実に従えば、人間にとってよい結果がもたらされることだけは間違いありません。摂理に従えば従うほど、いつそう幸福が得られるようになることだけは断言できます。なぜならすべての摂理は、神の愛から出発しているからです。神の摂理は「神の愛」の反映であり、よりよいものを人間に与えようとするところからつくり出されたものだからです。



## 霊的成長の一時ストップは、霊にとっての 苦しみであり罰である

肉体という物質の壁に閉じ込められている地上人には、霊的成長が停滞させられる（\*実際は自ら停滞させるのですが……）ことが、それほど重大なこととは感じられません。しかし肉体を持たない霊界の霊達にとっては、まさに一大事なのです。霊的成長は霊の本能から出る強烈な欲求であり、それが阻害されることは、霊にとっては最大の苦痛となります。

その苦痛はちょうど、私達地上人が何日間も食事を与えられず、ひどい飢餓に陥ったのと同じような状態だと思えばいいでしょう。地上人は肉体本能の欲求が満たされないと苦痛を感じますが、霊界人は霊的進化という霊的本能の欲求が満たされないと、たいへんな苦しみを感じるようになるのです。

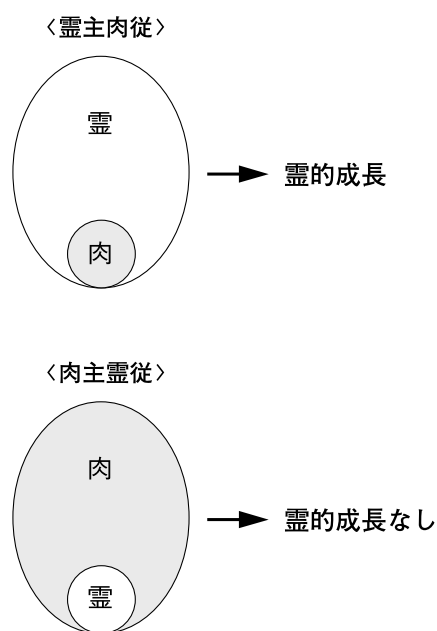
魂の成長が一時的に押し留められるというような事態は、地上で犯した罪に対する罰として与えられるのが普通です。地上でつくった霊的過ちが、霊界に行ってから霊的成長のストップという形で、苦しみをもたらすことになるのです。

### 5 || 霊的成長に関する摂理 〈2〉 ——「霊優位(霊主肉従)の法則」

地上人が霊的成長をなすためには、不可欠な条件があります。それが霊主肉従（霊優位）という霊的コントロールの努力です。神は霊主肉従の実践を通じて、地上人の霊的成長がもたらされるように造られました。これが霊的成長のための第1法則——すなわち「霊優位（霊主肉従）の法則」です。

地上人の霊的成長にとって、自らを霊的存在として立たしめることは絶対必要条件です。肉体という物質の中に閉じ込められたような状態のままでは、霊的成長はできません。地上人は肉体に包まれて物質世界に住んでいるために、自動的に物質中心の状態に陥ってしまいます。肉体の中に閉じ込められた霊は、霊としての本来の働きができなくなり窒息状

態に置かれます。残念なことに大半の地上人は、こうした“霊的窒息状態”のまま人生を歩んでいます。単なる肉の塊、動物と大差のない本能の奴隷、物質的欲望の家来となり、霊的存在としての最低ラインにも至っていないのです。



意識的に霊的要素を中心に据えようとしなければ、霊は肉体の牢獄の中に閉じ込められてしまいます。霊的意識を本能に対して支配的位置に置かないかぎり、霊的成長は望めません。これが「霊優位（霊主肉従）の法則」です。

霊優位（霊主肉従）の状態を確立しようとする、心の中で、霊的意識と本能（肉の意識）の2つが激しくぶつかり合い葛藤するようになります。これが「霊肉の闘い」です。この闘いを克服することによって霊的意識が心の中心を占めるようになり、霊が心の主役になる（\*霊主肉従）と、心全体が霊的エネルギーに満たされ、明るくすがすがしくなります。愛の思いが湧き上がってくるようになります。その反対に心が本能に支配される（\*肉主霊従）と、利己的思いが湧き上がってくるようになり、物欲・肉欲が高まり批判的な思いが大きくなります。

「霊主肉従の法則」は、肉体を持った地上人へのみ適用される法則（摂理）です。肉体を持たない霊界人には当てはまりません。霊主肉従の実践は、スピリチュアリストが目指す生活そのものと言えますが、具体的には、最少限の物質で満足し、本能的欲望に流されない生き方、本能の奴隷にならない生き方をすることです。すなわち質素で無欲、清らかな毎日を送ることです。

霊的知識を有する者は、それを正しく運用して、物的要素に偏らないようにならなければなりません。霊的要素の方に比重を置かなければいけないということです。正しい視野に立って考察すれば、焦点を正しく定めれば、日常生活での心の姿勢さえ正しければ、物的要素に対して最少限度の考慮を払い、決して偏ることはないでしょう。そうなれば霊的自我が意のままに働いてあなたを支配し、生活全体を変革せしめるほどの霊力が漲り、ついには物的要素に絶対に動かされない段階にまで到達することでしょう。

(シルバーバーチ 1・74)



## 6 || 霊的成長に関する摂理〈3〉 ——「利他性（利他愛）の法則」

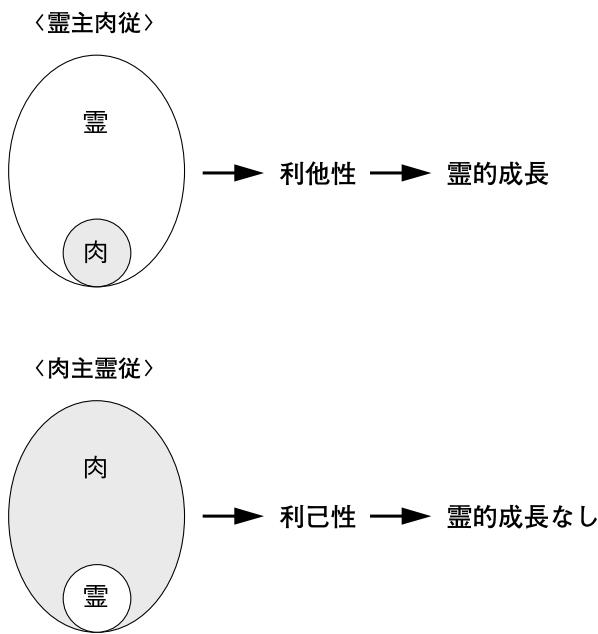
霊的成長をなすためのもう一つの不可欠な条件は、利他的行為の実践です。人間は利他愛の実践を通じて、霊的成長が促されるようになっていきます。これが——「利他性の法則」です。「利他性」は宇宙を支配する摂理です。宇宙の万物の存在形式であり、運行形式となっています。すなわち万物は他者との利他的相互関係の中で、お互いが共存するように造られているということです。利他性の実践によって人間は、宇宙・霊界と一体化し調和状態に置かれます。人間の霊的成長の度合いは、この利他性をどのくらい多く体得しているかということで決定されます。利他性を多く有する人間であればあるほど霊性が高く、霊界では高い界層に住むこととなります。

この利他性は人間の重要な霊的本能（魂の属性）の一つであり、他者に対する「利他愛」となって発現します。したがって利他性の法則は、人間にとっては——「利他愛の法則」と言い換えることができます。人間の霊的成長は、利他愛の実践を通じて獲得されるようになっていきます。反対に利己性や利己的行為は、人間の霊的成長を停滞させることとなります。

心が肉主霊従の状態にあるときは、その地上人は純粋な利他性（利他愛）を発現させることができません。心が霊主肉従であってこそ純粋な利他愛を持つことができるのです。地上人においては——「霊主肉従」と「利他愛」は常に一体不可分の関係にあります。霊主肉従は、地上人が利他愛を持つための“前提条件”となるのです。

地上人と違って肉体のない霊界人は、肉主霊従の状態に陥ることはありません。したがって霊界人には、「利他性の法則」のみが適用されることとなります。

最高の徳は愛他的です。愛すべきだから愛する、愛こそ神の摂理を成就することであることを知るが故に愛する、これです。(中略) 真の愛は大小優劣の判断を求めません。愛するという以外に表現の方法がないから愛するまでです。宇宙の大霊は無限なる愛であり、自己のために何も求めません。向上進化の梯子を登って行けば、己のために何も求めず、何も要求せず、何も欲しがらぬ高級霊の世界に辿り着きます。ただ施すのみの世界です。  
(シルバーバーチ1・143)



## 7 || 霊的成長に関する摂理〈4〉 ——「自由意志の法則」

### 自らの意思によって霊的成長の方向を選択

人間は永遠に霊的進化するように造られています。その霊的進化は「霊優位（霊主肉従）の実践」と「利他愛の実践」を通じて達成されます。神は、人間が自らの意思によってこれらの道を選択し、自分自身の責任において霊的進化の道を歩むように造られました。そのために、人間に「自由意志」を付与されたのです。

人間は自ら、霊的成長のための道を選択することも、反対に霊的成長に反する道を選択することもできます。これを——霊的成長に関する「自由意志の法則」と呼びます。

つまり光と闇、善と悪を生む力は同じものなのです。その根源的な力がどちらへ発揮されるかは神のかかわる問題ではなく、あなた方の自由意志にかかわる問題です。そこに選択の余地があり、そこに発達のチャンスがあるということです。(中略)

それには自由意志を行使する余地が与えられています。善か悪か、利己主義か無私か、慈悲か残酷か、その選択はあなたの自由ということです。  
(シルバーバーチ1・84)

——人間には自由意志があるのでしょうか。あります。自由意志も大霊の摂理の一環です。

(シルバーバーチは語る・352)

### \*摂理の支配と、自由意志の問題

神の摂理の支配と人間の自由意志の問題は、長い間、思想家や宗教家の頭を悩ませてきました。摂理と自由意志は、相反する方向性を持っています。もし宇宙・万物が神の摂理に完全に支配され機械的に運行されるとするなら、そこでは人間の勝手気ままな行為、摂理に反した行為は一切存在しないこととなります。宇宙と人間社会は完璧な善一色の世界になります。初めから神の権威と支配は最高にまで及び、人間は神の摂理に忠実な“善ロボット”として一生を終えることになるはずで

す。しかし現実には私達が生きている世界は、そのようにはなっていません。人間は動植物とは異なり、自由な思考活動とそれに基づく自由な行動が許されています。時には明らかに摂理に反していると思われるような非道な行為さえも、堂々として行われています。

そうした事実を目の前にして、神の摂理などというものが存在しないのだとの主張が現れます。一方、多くの宗教者は、神の絶対権威を揺るがせるような自由を、なぜ神が人間に与えたのか疑問に思ってきました。

このような状況の中で、「神の摂理」と「人間の自由意志」についての議論は続いてきました。そして現在に至るまで、この問題に明快な解答が与えられることはありませんでした。スピリチュアリズムは、この人類を悩ませ続けてきた難問に対して——「自由意志の法則」という明瞭な解答を示しています。



### 「自由意志の法則」は、神の愛の反映

神が「自由意志の法則」を定めた理由を、少し踏み込んで考えてみることにしましょう。神は人間を、他の存在物（動植物）のような摂理ロボットとしては創造されませんでした。人間にのみ「自由意志」を与え、自分自身の自発的判断によって霊的成長の方向性を選択し、自らの責任によって霊的成長を果たすように創造されました。そして人間の自由意志に対して、神はいつさい干渉しないように定められました。

神は、人間が摂理に従っていく可能性と摂理に背く可能性があることを予測したうえで、あえて“自由”という特権を与えたのです。人間に自由を与えたことで、人間と神はある意味で対等な関係に立つことになりました。

神が人間に自由意志を与え、自分と同じ立場・対等な立場に立たせたのは、すべて「神の愛」から発したことなのです。人間が自らの判断で神の摂理を実践し、神の分霊・神の子供としての権威を確立したとき、自発的な愛情関係・真の愛情関係が成立することになります。真の愛情関係が成立するためには、自由性と独立性が保障されなければなりません。神はそのために人間に自由意志を与え、神からの独立性を持たせたのです。

人間に「自由意志」が与えられているという事実には、人間との間に真の愛情関係をつくりたいと願う神の期待が示されているのです。

### 自由といっても、どこまでも「制限付きの自由」

ただし、ここでもう一つの重要な点について併せて理解しておかなければなりません。神が人間だけに自由意志の特権を与えているといっても、それはどこまでも摂理の一定の制限（<sup>わく</sup>枠）内においての自由であるということです。この枠から外れようとすると、苦しみ・痛みという警告が摂理によって発せられ、ブレーキ・歯止めが掛けられるようになります。このように神が人間に与えた自由は、無制限ではなく、摂理から外れない範囲での「制限付きの自由」であるということです。

とかく人間は、何事も自分の思い通りにできるものと錯覚しがちですが、そうではありません。人間は、肉体の正常な本能を無視して暴飲暴食を続けると、やがて痛み・苦しみ・病気という摂理からの警告を受けることとなります。その警告を無視してさらに暴飲暴食を繰り返すことは、普通の人にはできません。もしそれでも続けるならば病気は深刻化し、いずれ死を迎えるようになります。摂理に反した行為は、最後には自分の肉体そのものを滅ぼすことになってしまいます。

このように摂理に反した行為や方向性に対しては、苦しみ・痛みといったブレーキが自動的に働くようになります。この摂理のブレーキ作用によって、人類は摂理から大きく外れたままでは存在できないようになっています。いやおうなく摂理に一致した方向に軌道修正せざるを得なくなるのです。人間には一見、完全な自由が与えられているかのように見えますが、本当は常に一定の枠内に拘束されていることが分かります。

人間には例外なく自由意志が与えられております。ただしそれは、大霊の定めた摂理の範囲内で行使しなければなりません。これは大霊の愛から生まれた法則で、大霊の子のすべてに平等に定められており、それを変えることは誰にも出来ません。その規則の範囲内において自由であるということです。

(シルバーバーチは語る・353)

\*人間と違って野生動物は、本能に忠実な歩みをしています。人間のように本能の欲求という摂理の枠を越えて暴走することはありません。野生動物には人間のような自由意志が与えられていないために、神の摂理の支配がそのまま行使されることとなります。

## 苦しみによる霊的覚醒

さて、人間にとって一番重要なことは、言うまでもなく霊的成長です。もし人間が霊的成長に反するようなことをすると、さまざまな「霊的苦しみ・痛み（孤独感・悲しみ・不安・恐怖・焦り・絶望・焦燥など）」が生じるようになります。肉体の苦しみや痛みに耐えられないように、「魂の苦しみ・痛み」に対しても、人間はいつまでも耐え切れるものではありません。

人間は魂の痛みのどん底にまで落ちると霊的に目覚め、自動的に摂理の方向に向かうようになります。これが「苦しみによる霊的覚醒」です。こうして地球上の人間は、一人の例外もなく神の摂理のもとで、少しずつではあっても霊的成長の道を歩み続けることになっています。

この「苦しみによる霊的覚醒」は、個人個人の霊的成長のプロセスにおいてだけでなく、人類全体に対しても、国家全体に対しても、民族全体に対してもそのまま当てはまります。地球人類は摂理による警告（苦しみ・痛み）を通じて、徐々にではあっても、全体として霊的成長の方向をたどっていくこととなります。



## 靈的成長とともに拡大する自由意志の範囲

人間の自由意志について、もう一つの重要な点は、自由意志を行使できる幅は靈的成長レベルに応じて自動的に制約されるということです。人間の自由は、魂の進化に応じて拡大し、靈的に高くなればなるほど、自由意志を行使する範囲が広がります。

とかく地上人は無制限の自由を手に入れていると考えがちですが、実際には、各自の靈的成長レベルに応じた一定の枠内で自由を満喫しているに過ぎません。靈的に成長すれば自由が広がり、今とは比較にならない美と喜びを味わうことができますようになります。

### 8 || 靈的成長に関する摂理〈5〉 ——「因果（カルマ）の法則」

#### 宇宙・靈界を支配する因果の法則

神が造られた宇宙・靈界が法則によって支配されているということは、宇宙と靈界のすべてが、「原因と結果の機械的連鎖関係」の中で存在しているということを意味します。神が造られた宇宙と靈界は、因果関係という神の定めた法則によって支配されています。この「因果の法則」の外に出られるものはありません。ミクロの物質世界の運行もマクロの宇宙全体の運行も、すべてが因果の摂理のもとに置かれています。

そしてこの因果関係は、私達人間の心の世界に対しても、そのまま適用されるようになっています。人間にとって一番重要な靈的成長は、神の造られた「因果の摂理」の支配を受けて進められます。

#### 人間の靈的成長に関する「因果の法則」

人間に与えられた自由は、愛の本質的要素であるために、神はこれを不可侵領域とされました。人間は自由意志によって、自発的に靈主肉従と利他的行為を実践することができます。反対に自由意志によって、人間は自ら摂理に背き靈的成長の道を放棄することもできます。

これが「自由意志の法則」でしたが、その際、地上人が摂理に合った歩みをすれば、それがよい原因となって「よい結果（靈的成長）」がもたらされるようになります。反対に「悪い原因（肉主靈従と利己的行為）」をつくれれば、「悪い結果（靈的成長のストップと靈的痛み）」がもたらされるようになります。これが靈的成長に関する——「因果の法則」、すなわち「カルマの法則」です。

#### 「罪と罰の法則」——負のカルマの法則

摂理に反した悪い原因と、それによってもたらされる悪い結果というマイナス（負）の因果関係を、従来の宗教では「罪と罰」と呼んできました。したがって靈的成長に関するマイナスの因果の法則（負のカルマの法則）は、「罪と罰の法則」と言い換えることができます。（\*肝心な罪と罰の内容については、スピリチュアリズムと従来の宗教では解釈が根本的に違っていますが……）



## 因果の結果は、地上で現れるとは限らない

ここで重要なことは、「因果の法則」は必ずしも地上人生においてのみ適用されるものではないということです。地上で犯した間違った行為の結果は、常に地上人生の中で返ってくるとは限りません。地上でつくった罪の多くが、死後の霊界で後悔や苦しみとなって返ってきたり、再生人生において苦しみ・病気・不幸といった形で与えられます。

しかし大半の地上人は、地上世界での悪行が霊界に行ってから自分に返ってくるという事実を実感できないために、平気で悪事を繰り返すことになっています。悪いことをしても、何とかごまかすことができると思ってしまうのです。

物質世界だけをすべてと考えると、霊的成長に関する「因果の法則」は理解できません。霊界をも含めた広い視野に立って見るとき、厳格な因果の摂理の支配について心から納得できるようになります。死んで霊界に行った霊達は、例外なく神の摂理の完璧さに感嘆し、摂理の支配を無条件に認めるようになります。

自分が種を蒔き、蒔いたものは自分で刈り取る——この法則から逃れることは出来ません。神の法則（因果の法則）はごまかすことが出来ないのです。

（シルバーバーチは語る・358～359）

人間の行為の一つひとつについて、その賞と罰とが正確に与えられます。これを別の言い方をすれば、原因があれば必ずそれ相当の結果があるということです。

（シルバーバーチ1・45）

死んで霊界へ戻ってきた者に尋ねてごらん下さい。誰しもが「摂理は完璧です」と答えるはずです。

（シルバーバーチは語る・88）

## 9 || 霊的成長に関する摂理〈6〉 ——「自己責任(自業自得)の法則」

因果の法則に基づく悪い結果はすべて本人の責任であり、そのツケ（悪い結果）はすべて本人が負わなければならない——これが「自己責任の法則」です。今直面している苦しみは、これまでの人生で自らがつくった悪い原因が結果として現れたものです。その意味で、あらゆる苦しみは「自業自得」ということになります。

物質世界だけを人生のすべてと考えると、いわれない不幸・苦しみが一方向的に与えられていると錯覚してしまいます。神の造った世界は、何と不公平で不平等なところなのかということになってしまいます。しかしすべての結果は、前世や霊界を含めてこれまで自分自身が行ってきたことのツケなのです。なるべくしてなっている必然的な結果なのです。そこに一切の不公平・不平等はありません。

とかく信仰心の篤い人間は、悪いことが生じるのは神が罰を与えたからだと考え、恐れを抱きます。その一方で多くの地上人は、生まれ育った環境や周りの人間関係が悪いために自分に不当な苦しみを与えられていると考えます。しかし、現在味わっている苦しみや不幸は、自分自身がつくり出したものなのです。生まれつきの身体の不自由・障害も、そのほとんどが前世におけるカルマが原因となっています。

反対に、これまでの人生で善なる原因を積み上げてきた人は、高い霊性と霊的知識・霊的視野という「善なる結果」を手にするようになります。皆さん方が今、スピリチュアリズムと出会い、本物の霊的知識を手にするという幸運に恵まれた事実は、これまでの人生でそれにふさわしい努力をしてきたということなのです。





その人は善いことをする自由も悪いことをする自由もあったのを、あえて悪い方を選んだ、自分で選んだのです。(中略)ならば蒔いた種は自分で刈り取らねばなりません。それが神の摂理です。

(シルバーバーチは語る・359～360)

## 10 || 霊的成長に関する摂理〈7〉 ——「償い(苦しみによるカルマ 清算)の法則」

摂理に背いた結果は、苦しみとして自分自身に戻ってきます。実はその苦しみは、罪の償い・罪の清算プロセスとなっています。人間は、自分がかつて犯した摂理違反(肉主霊従・利己的行為)を、それに等しい苦しみをもって償うようになっています。これが——「償い(苦しみによるカルマ清算)の法則」です。

苦しみによって罪が償われ、霊的成長のための足枷あしかせが取り外されることによって人生がリセットされ、霊的成長に向けて再出発できるようになります。スピリチュアル・ヒーリングで病気が奇跡的に癒されるのは、悪いカルマが切れた人にもみ起こることです。スピリチュアル・ヒーリングでの驚異的な治癒は、すべて摂理に従って生じた結果に過ぎません。

人間の再生は、この「償いの法則」に基づいて行われます。霊界における(地上人生の)反省によって、かつて地上で犯した罪が今の自分の霊性にどのような障害を引き起こしているのかが自覚できるようになります。すると、それを償い清算するような再生人生を願うようになります。

再生人生では、自ら選んだ試練の内容が絶妙なタイミングで生じるようになっていきます。罪の償いのための苦しみの体験は、病気であったり、不幸やトラブルであったりします。肉体を持つと、自分自身が再生に先立って苦しみの試練を選択した事実をすっかり忘れてしまい、一方的に苦しみや不幸が与

えられていると思いがちです。しかし本当は、地上人生における苦しみの体験の多くは、自分自身で願い、自発的に受け入れたものなのです。それに正しく対処することで、霊的成長の道を再び歩み出せるようになります。

その結果に対して責任を取らなくてはなりません。元にもどす努力をしなくてはなりません。紋切り型の祈りの文句を述べて心が安らぎを得たととしても、それは自分をごまかしているに過ぎません。

(シルバーバーチは語る・360)

大きな過ちを犯し、それを神妙に告白する

——それは心の安らぎにはなるかも知れませんが、罪を犯したという事実そのものはいささかも変わりません。神の理法に照らしてその歪みを正すまでは、罪は罪として相変わらず残っております。いいですか、それが神、私の言う大霊の摂理なのです。

(シルバーバーチは語る・361)



## 11 || 靈的成長に関する摂理〈8〉 ——「自己犠牲の法則（代価の法則）」

人間の靈的成長は、靈主肉従と利他愛という摂理に一致した実践によってなされます。その際「自己犠牲」が大きければ大きいほど、結果的に大きな靈的成長がもたらされるようになります。正しい目的のために自分を犠牲にすれば、いっそう多くの靈的宝を手にすることができるようになるのです。全人類の幸福と向上のために自ら犠牲と苦勞を買って出れば、その分だけ多くの靈的成長が促されます。これが——「自己犠牲の法則（代価の法則）」です。言うまでもありませんが、間違った目的（物欲や私利私欲・この世的な利益追求）のためにどれほど犠牲を払っても、靈的成長はなされません。どこまでも「摂理にそって犠牲を払う」ということが肝心なのです。

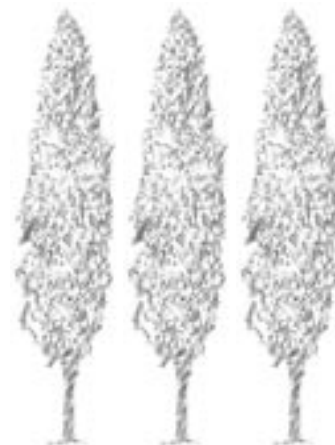
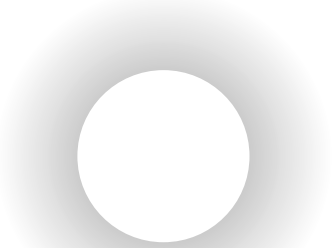
自己犠牲とは、自分の利益を後回しにして、より多くの人々の幸せを優先して求めるということです。靈的世界の存在を認めず、死ねばすべてが終わりだと思い込んでいる人にとっては、自己犠牲は損失以外の何ものでもありません。現在の地球人には、あまりにも世間一般の常識から懸け離れた生き方と感じられるかも知れません。しかし靈界にいる靈達にとっては、自己犠牲はごく当たり前の生き方なのです。現在の地球が物質中心の価値観に完全に支配されているために、それが特殊なものに映っているに過ぎません。

自己犠牲は、地上における最も価値ある生き方です。最も賢明な生き方、最も得をする生き方なのです。自己犠牲は、靈主肉従と利他的実践をより徹底し、靈主肉従と利他性のレベルを高め、靈的成長をより早く促してくれる賢明な生き方なのです。「自己犠牲の法則」は、「利他性の法則」を強化する法則と言えます。

我欲を棄て、他人のために自分を犠牲にすればするほど内部の神性がより大きく発揮され、あなたの存在の目的を成就し始めることになります。 (シルバーバーチ 1・145)

何の代価も支払わずして入手できるものは、この地上界には一つもないということです。

(シルバーバーチは語る・82～83)



## 12 || 靈的成長に関する摂理〈9〉 ——「苦難の法則（光と陰の対照 の法則）」

神の摂理に合った実践（霊主肉従・利他愛の行為）を通して靈的成長がもたらされますが、その際、困難・苦難を多く克服すればするほど、靈的成長が早く促されることとなります。正しい目的にそって乗り越えた困難・障害は、靈的成長のための肥やしとなり、魂の栄養素となります。摂理に一致した目的達成のために多くの苦勞をすればするほど、あるいはそのためのハードルが高ければ高いほど、それを乗り越えたときにはより多くの靈的成長がもたらされます。これが——「苦難の法則」です。

霊界とは異なり、地上世界は光と陰の対照的要素から成り立っています。困難・苦難は靈的成長における陰の要素です。地上人にとってはその陰の体験が、結果的に靈的成長にとってプラスの作用をします。陰の体験によって魂が純化され、鍛えられ、光のありがたさを実感できるようになります。

神は地上世界を、対照的な体験を通じて靈的成長する厳しい訓練場として創造されました。地上人は光と陰の対照の体験によって視野を広げ、魂を磨くことができるようになります。地上世界では、両極の対照的体験によって靈的成長が促されるようになっています。これを——「光と陰の対照の法則」と言います。この法則は、「苦難の法則」を別の角度から言い表したものです。

こうした靈的成長の仕方は、地上人にのみ当てはまります。地上ならではの靈的成長のプロセスと言えます。環境が善（光）一色となっている霊界においては陰の体験はありません。地上人生には摂理達成のための困難や障害が必ず生じるようになっていますが、それは考え方によっては靈的成長が早められるありがたいものなのです。困難やトラブルという靈的成長の“陰”の部分を知ること、成長の喜びという“光”の部分をもっと深く理解することができるのです。

地上人は、わざわざ肉体という重くうっとうしいよろい鎧を身にまとって生きていかなければなりません。それが靈的成長をより効果的に促すことになっています。地上世界が困難な環境として造られているのは、人間の魂をより早く成長させたいと願う神の愛からの配慮なのです。まさに「かわいい子には旅をさせよ、若いうちに苦勞をさせよ」との親心と言えます。

魂の偉大さは、苦難を乗り越える時にこそ発揮されます。失意も落胆も魂の肥やしです。魂がその秘められた力を発揮するには、いかなる肥やしを摂取すればよいかを知る必要があります。それが地上生活の目的なのです。

（シルバーバーチ1・56）

困難にグチをこぼしてはいけません。困難こそ魂の肥やしです。むしろ困難の最中にある時はそれをありがたいと思うわけにはいかないでしょう。辛いのですから。しかし、あとでその時を振り返った時、それがあなたの魂の目を開かせるこのうえない肥やしであったことを知って神に感謝するに相違ありません。

（シルバーバーチ1・57）



暗黒と光、陰と日向といった、まったく対照的なものも、実は一個の統一体の側面の反射に過ぎません。陰なくしては日向も有り得ず、光なくしては暗黒も有り得ません。それと同じ理屈で、困難は魂が向上するための階段です。困難・障害・ハンディキャップ——こうしたものは魂の試練なのです。それを克服した時、魂はより強くなり、より純粋になり、より充実し、かくして進化が得られるのです。

(シルバーバーチは語る・98)

光をありがたいと思うのは、陰と暗闇を体験すればこそです。晴天をありがたいと思うのは嵐を体験すればこそです。物事の成就を誇りに思えるのは困難があればこそです。平和がありがたく思えるのは闘争があればこそです。このように人生は対照の中において悟っていくものです。もし辿る道が単調であれば開発はないでしょう。さまざまな環境の衝突の中にこそ内部の霊性が形成され成熟していくのです。

(シルバーバーチ1・46)

### 13 || 霊的成長に関する摂理の相互関係と全体像

これまで霊的成長に関するさまざまな法則(摂理)について見てきました。これらの法則は複雑に絡み合い、組み合わさって運行されていきます。また、一つの法則に別の法則が加わって展開したり、大きな摂理の中に小さな摂理が含まれる形で進展していきます。こうして多次元的な摂理と摂理の関係が成立します。とはいえ摂理である以上、そのいずれの次元においても、機械的な厳格性が失われることはありません。

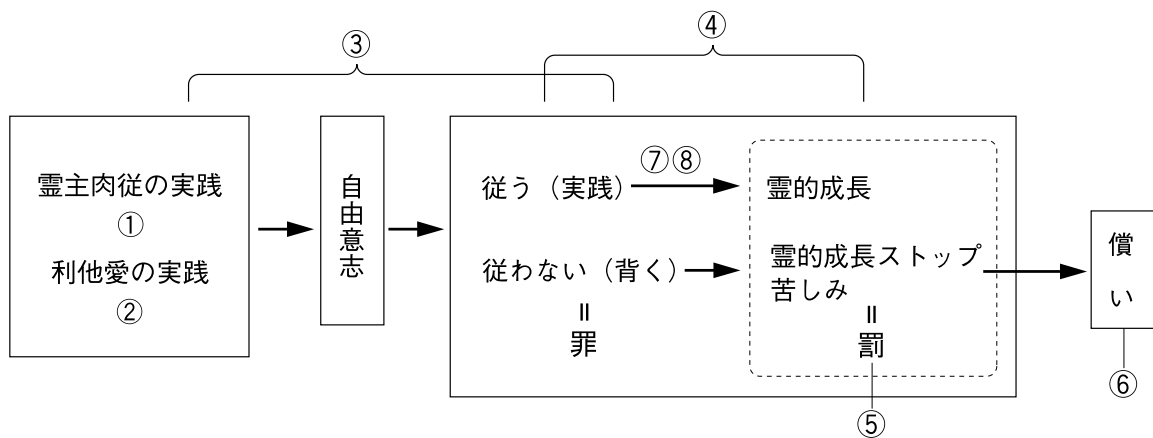
法則の裏側にはまた別の次元の法則があるというふうに、幾重にも重なっております。

(霊的新時代の到来・143)

摂理の裏側に別の次元の摂理があります。(中略) これらが裏になり表になりながら働いているのです。

(霊的新時代の到来・190)

人間の霊的成長に関する摂理の全体像を図示すると、次のようになります。



- ① 霊主肉従の法則 ② 利他性(利他愛)の法則 ③ 自由意志の法則
- ④ 因果(カルマ)の法則・罪と罰の法則 ⑤ 自己責任(自業自得)の法則
- ⑥ 償いの法則 ⑦ 自己犠牲(代価)の法則 ⑧ 苦難の法則

## 14 || まとめ

### ——日常生活で何をすべきか？

#### スピリチュアリズムは、神の摂理に対する シンプルな信仰

スピリチュアリズムは、「神」と「神の摂理」に対する信仰です。それは言い換えるならば、自分を摂理に合わせ正そうとする、実に単純・シンプルな信仰であるということです。神に救いを求めたり個人的な願い事をするのではなく、自らを神の摂理に一致させ、自分自身の魂を救おうとする信仰なのです。

私達は、将来に対して心配したり、不安を持つ必要はありません。なぜなら神の摂理に一致さえしていれば、何一つ悪いことは生じないからです。「自分が今、摂理と一致しているかどうか」——それだけが問題なのです。私達は、その点に常に意識を向けているだけでよいのです。スピリチュアリズムは、神の摂理を絶対的に信仰することによって、心に平安と幸福をもたらす信仰なのです。

#### 日常生活で何をすべきか

これまで人間の霊的成長を支配する、さまざまな神の摂理（法則）について見てきました。私達が霊的成長をなすには——「摂理と一致した生き方をすればよい」というのがその結論です。摂理に忠実な生き方、それはスピリチュアリズムという信仰の努力に他なりません。

私達が摂理に忠実な生き方をするために日常的に意識すべきことは、「霊主肉従」と「利他愛」の実践です。そして生活の中で生じてくるさまざまな「困難やトラブルを、広い霊的視野に立って受け止め甘受する」ということです。日常的に何をすべきかは、この3点に集約されます。この3つのことを心がけ努力することによって、私達は神の摂理と一致した歩みができるようになります。

それこそが地球人として最高の生き方であり、最高に価値あるスピリチュアリズム人生なのです。

摂理に一致した生き方  
最高に価値ある地上人生  
正しい霊的人生

||

〈具体的には〉  
霊主肉従の努力  
利他愛の実践  
苦しみに正しく対処する  
↑  
(霊的視野)



# アメリカ大統領選挙にみるアメリカ社会の本質と、 米国でのスピリチュアリズムの展開

このたびの米国大統領選挙は、大方のマスメディアの予想を覆し、ブッシュ再選という結果に終わりました。この大統領選挙によって、私達はそれまであまり知ることのなかった米国社会の本質の一面を垣間見ることになりました。スピリチュアリズムから見たとき、今回の選挙結果はどのように考えることができるでしょうか。

## スピリチュアリズムこそが、世界を変えている ——世界情勢を見るときの大原則

世界的な事件や出来事に遭遇するとき、私達が真っ先に確認しておかなければならない重要な点は、地上世界の問題は政治によって根本解決が図られるのではないということです。国際政治によって戦争がなくなり、本当の平和がもたらされるようになるのではないということです。さらには国連などのような国際機関やマスメディア、大衆平和運動によって地球上から戦争が消滅するようになるのではないということです。

地球上に蔓延している不幸・悲劇はすべて、人類の物質中心主義と利己主義から引き起こされています。そうした根本原因を解決して人類に平和をもたらすことができるのは、スピリチュアリズムという霊界挙げての救済プロジェクト以外にはありません。

スピリチュアリズムのみが唯一の「真の反戦・平和運動」なのです。霊的真理の普及という人類規模の霊的革命においては、どのような方法も地球上の問題を根本的に解決することはできません。スピリチュアリズムによる霊的真理の普及こそが、最終的に地球から戦争を駆逐し、平和をもたらすことができるのです。私達スピリチュアリストは、まさに

その大計画に参加している当事者なのです。これまでの霊界一丸となつての働きかけによって、地球は徐々に進化・向上の道をたどってきました。

こうした霊界の動きが分からないと、アメリカという唯一の超大国に過大な期待を寄せてみたり、その反対にむやみにアメリカに対して反発するといったようなことになってしまいます。そうした見方は、どこまでも物質的視野からの一面的で偏狭な判断に過ぎません。いうまでもなく今回のアメリカ大統領選挙が、これからの世界の行く末を決定的に左右するようなことはありませんし、仮に影響があるとしてもごく表面的なものに過ぎません。スピリチュアリズムからすれば、ブッシュもケリーもたいした違いはなく、強いて言うなら今後の世界の動向にとって、ブッシュの方が“ややまし”という程度に過ぎません。それよりむしろ今回の選挙結果が、偽善的平和主義者に衝撃を与えたという意味では、よかったと言えるかも知れません。

以上のような重要な点を押さえたうえで、米国大統領選挙を霊的な観点から見ることにしましょう。



## 偏向マスメディアと偏向アカデミズムが、 純粋な信仰に負けた

世界中のメディアは当初、今回の選挙を、ブッシュ大統領のイラク戦争の是非を問うものと予想していました。マスメディアは、ブッシュ共和党＝ネオコン＝好戦派、ケリー民主党＝リベラル＝平和派という図式を描いて、世論をつくり上げていきました。ニューヨークタイムズ、ワシントンポスト、CNNに代表される米国マスメディアの80%が、ケリー支持を打ち出したばかりでなく、報道面でもイラク情勢の悪化を拡大して伝え続け、ブッシュ不利の印象を強めていきました。そして世界中でブッシュ反対の世論をつくり出すことに成功しました。日本のマスコミや新聞も一部（産経・読売）を除いて、ほとんどがこれと同様の反ブッシュの論調を展開しました。そして露骨なほどにブッシュ落選への期待をあらわにしました。

また、アメリカの主要大学の教授陣は、極端にリベラル支持に傾いていました。たとえばハーバード大学の95%、コーネル大学の93%、エール大学の93%が、ケリー候補への支持を明らかにし、異常なほどの政治的な偏向状態にありました。他の大学もほとんどこれと同様に、圧倒的なケリー支持を表明しました。（\*ハーバード大学では、保守主義を隠さなければ終身在職権を得られないと言われていました。このようにアメリカの大学界・アカデミズムは極端にリベラル寄りの立場に立っています。）

しかし、いざ投票箱の蓋を開けてみると、イラク戦争の妥当性よりも倫理・価値観が焦点となっていたことが明らかにされ、ブッシュの再選が果たされました。マスメディア、特にブッシュ落選を心待ちにしていたマスメディアは、選挙の結果にショックを受け、手の平を返すように論調を変えるようになりました。

80%のマスメディアが支持し、90%を越す主要大学の教授陣（アカデミズム）の支持を取り付けたケリー候補を破った原動力、すなわち今回のブッシュ再選の要となったのは、キリスト教右派（保守派）でした。リベラルの85%がケリーを、キリスト教保

守派の84%がブッシュに投票したという、支持層を二分した今回の大統領選挙は、まさに米国の社会状況を端的に示したものと言えます。選挙結果は、人間の理性を重視する人間中心主義のリベラル派やマスメディアが、純粋な神への信仰を中心とする宗教勢力・宗教支持層に負けたということになります。

## 宗教大国という、もう一つの大きな姿

私達がアメリカというと真っ先に思い浮かべるのは、ニューヨークやワシントンやボストンなどがある東部海岸地域と、ロサンゼルスやサンフランシスコがある西部海岸地域です。アメリカ旅行といえば、まずこうしたリベラル色の強い地域を訪れます。そのため大半の日本人は、それらの地域がアメリカすべての代表のように思い込んでしまいます。そこには進歩的気風と自由、実力主義と個人主義が闊歩し、まさにこれこそがアメリカ的なものだと圧倒させられます。

確かにそうしたものはアメリカの現実ですが、しかし、アメリカにはそれに匹敵するもう一つの別の大きな顔があるのです。それがアメリカは「世界最大の宗教大国」であるということなのです。この点でアメリカは、ヨーロッパや日本などの先進諸国とは本質的に異なっています。多くの日本人は、アメリカが現在も世界最大の宗教大国であるという事実

に全く気がついていません。



アメリカという世界最大の宗教国家を支えているのが、アメリカ大陸の中部と南部の広い地域です。今回の選挙では大半の中南部の州で、ブッシュ氏が勝利を収めています。中南部の多くの地域では、現在でも過半数の人々が毎週教会に通っています。アメリカのキリスト教における原理主義的傾向（\*教義を厳格に守ろうとする信仰傾向）は相当に強く、純粋にそして熱心にキリスト教の信仰を守っています。子供に対する宗教教育も徹底しています。今回の大統領選挙では、こうした人々がブッシュ氏を支持したために、再選が果たされることになったのです。

今回の選挙は世界中の人々に、宗教国家としてのアメリカでの宗教の力を見せつけることになりました。宗教の力を過小評価していたマスメディアは、足元をすくわれることになりました。マスメディアの傲慢さが、純粋な信仰心に負けたということです。

## スピリチュアリズムの「霊主肉従」の観点から見た、米国の宗教・社会事情

ブッシュ氏を支持した熱心なキリスト教徒（\*特に中南部のキリスト教右派の人々）は、倫理観や信仰を最も重視し、実際の選挙ではイラク問題やテロ対策以上に、同性婚や妊娠中絶などの倫理問題に呼応しました。こうした人々の中には当然、イラク問題についてはブッシュ氏と反対の意見を持っていた人もいたはずですが、最終的にはそうした人々も、ブッシュの倫理観に共鳴しブッシュ氏に票を投じたのです。政治や戦争よりも、信仰を重視するという傾向が浮き彫りにされました。

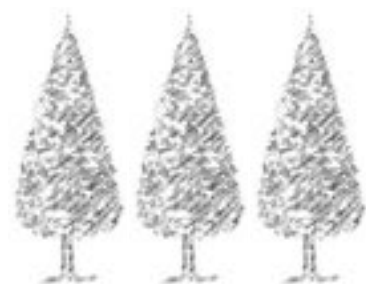
こうした熱心な信仰者は、生活も清く、性の乱れもなくストイックで「霊主肉従」の努力を当然のこととして受け入れています。日本の高校生からは想像もつきませんが、キリスト教の影響の強い地域社会では、異性と交際している高校生はほとんどいないというようなことも珍しくありません。

それに対しリベラル支持者は、人間の自由と進歩主義を尊重し、信仰より人間の理性を重視する傾向が強いのです。信仰（神）中心主義を人間中心主義に変えることによって、「霊主肉従」のために必要

な本能抑制の努力（ストイック努力）を否定し、結果的に霊的墮落状態を引き起こすようになっていきます。肉体本能に支配されて「肉主霊従」に流されるようになり、性の乱れを発生させることになっています。最低限の霊性維持さえできなくなって、獣に等しい醜い状態に堕ちています。ケリー候補は、そうした人々が受け入れやすい公約を掲げました。人工中絶を容認し、同性婚に対しても黙認の方向を打ち出しました。

霊性の維持という点からすれば、明らかに信仰派の方がスピリチュアリズムに近いと言えます。リベラルの理性重視は決して間違っていない（\*理性は間違った宗教教義・ドグマから人々を救い出す強力な力です）が、「信仰心」そのものまでも捨て去ることによって「肉主霊従」状態に陥り、スピリチュアリズムから懸け離れるようになってしまいます。（\*もちろんすべてのリベラル派が霊的に墮落しているというわけではなく、またすべての信仰派が清らかで霊主肉従を保っているわけではありませんが、全体の傾向としては大きく二分されます。この問題は最終的には、一人一人の霊性に帰着します）。

一方、死刑についてはブッシュ氏は賛成、ケリー氏は反対、銃規制についてはブッシュ氏反対、ケリー氏賛成で、ともにケリー氏の政策の方がスピリチュアリズムに近いものとなっています。





## 「スピリチュアリズム・ブーム」と 「ニューエイジ」

ここでスピリチュアリズムに話を持っていきましょう。スピリチュアリズムが19世紀半ば、フォックス家事件から出発したことはスピリチュアリストなら誰もが知っています。スピリチュアリズムの中心が英国に移る19世紀末まで、アメリカ国内ではスピリチュアリズムの旋風が巻き起こりました。これを「第1次スピリチュアリズム・ブーム」と呼ぶとするなら、21世紀には間違いなく「第2次スピリチュアリズム・ブーム」が米国内に起こることになります。

アメリカは世界の雛形<sup>ひながた</sup>で、アメリカで生じること（ブームになること）は善きにつけ悪きにつけ、その後、時をへて世界中に広がることになります。もしアメリカに「ハイレベルのスピリチュアリズム」が普及するようになれば、そのうねりは世界中に伝わるようになります。まして現在はインターネットの時代です。その影響力は瞬くうちに世界中に及ぶことになるでしょう。

第1次スピリチュアリズム・ブーム以降、アメリカのスピリチュアリズムは精彩を欠くようになり、一部の人々の間で、細々と命脈を保つというような状態が続きました。そうした中で20世紀後半になって、ニューエイジやチャネリングが、突如大きなブームを巻き起こすことになりました。実はこれらの動きは、霊界から「ハイレベルのスピリチュアリズム」受け入れのための準備として仕組まれたものでした。ニューエイジは、今回の選挙でリベラルの支持層が多かった西海岸地域と東海岸地域で流行しました。

## 最後の輝きの時代を迎えている、 現在の米国キリスト教

スピリチュアリズムはいうまでもなく、キリスト教に反対の立場に立っています。スピリチュアリズムにとっての最大の敵はキリスト教です。アメリカにおいて、いまだにキリスト教が強大な権力を持っているということは、アメリカがスピリチュアリズムとキリスト教の最後の決戦場になるということの意味します。

ヨーロッパでは、人間の理性重視の風潮が強くなるにともない、キリスト教は徐々に衰退しました。それに合わせるかのように、英国においてスピリチュアリズムとキリスト教が衝突しました。先輩スピリチュアリスト達の人生を懸けた必死な闘いの結果、スピリチュアリズムは勝利を収めることになりました。地球規模で見ると、今やキリスト教との戦いは決着がつき、キリスト教は時間の経過とともに衰退し、反対にスピリチュアリズムはますます勢いを拡大していくことが確定的になっています。アメリカのキリスト教は、そうした衰退の流れの中における最後の大きな輝きなのです。その光がどれほど強くても、しよせん最後のひと輝きに過ぎません。

このキリスト教の最強の残存勢力に打撃を与え、スピリチュアリズム導入の道を開拓するために引き起こされたのが、ニューエイジだったのです。ニューエイジは低次元のスピリチュアリズムの尖兵と言えます。



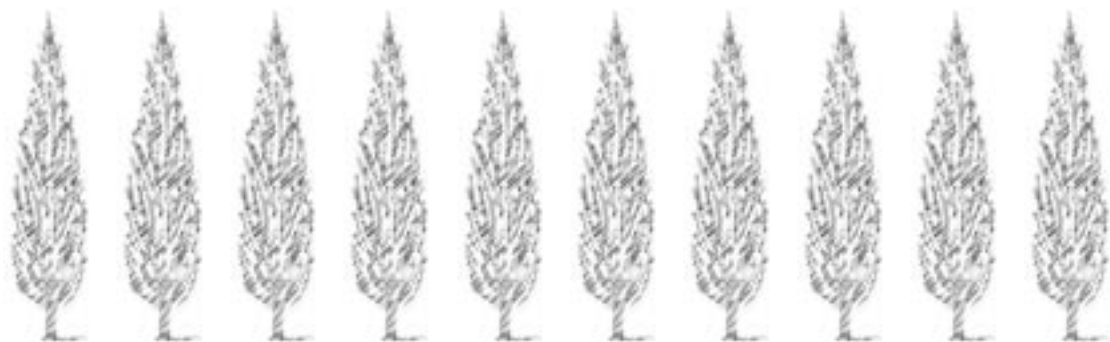
## 米国社会のスピリチュアリズムの受け入れ

霊界から計画的に展開されたニューエイジによって、徐々にスピリチュアリズム受け入れの霊的な準備が整い始めています。リベラルの流れの中でニューエイジは展開しますが、そこでは同時に「肉主霊従」というマイナスの問題も現出しています。霊的清らかさという点で、これまでのニューエイジは多くの問題を抱えています。やがてその中から時期のきた人々が、シルバークラウンなどの高次元のスピリチュアリズムと出会うようになっていきます。

一方、純粹であっても従来のキリスト教に縛られ、そこから一歩も抜け出ることができない信仰者に、

スピリチュアリズムが浸透していく可能性はあまりありません。おそらくはその子供達、孫達の代に至って、スピリチュアリズムは受け入れられるようになるでしょう。

今後スピリチュアリズムは、ニューエイジ流行の基盤となっていた地方（西部海岸・東部海岸）から展開することになります。現在のアメリカはあまりにも多くの問題が複雑に入り組んで、混沌としているように思えますが、スピリチュアリズムの観点から見ると、これからのスピリチュアリズム展開の様子が明確に浮き彫りにされます。



---

# ふるさと シルバーバーチの故郷を訪ねて

## — 英国訪問の報告 —

航空機を使ったアルカイダのテロ計画が、英国治安当局によって未然に阻止されたという報道が流れた昨年11月下旬、心の道場の3人のメンバーが、一年ぶりにシルバーバーチの故郷を訪問しました。

すでにニューズレターでもお伝えしましたが、トニーは現在、ツーワールズの編集長と同時に、サイキックニュースの編集長を兼任しています。そのため週2回はサイキックニュース社に出向くという超ハードな毎日を過ごしています。

トニーからのメールで、今回の訪英では、ツーワールズのチェアマン（会長）であるジョージ・クランレー夫妻も会いに来るという連絡を受けていました。ジョージに会ってから分かったことですが、彼は一度だけ「シルバーバーチの交霊会」に参加していました。そのときのバーバネルの様子を、身振り手振りを交えて再現し、私達に説明してくれました。シルバーバーチの交霊会は、彼にとっても本当に印象深く、意義深かったことがよく分かりました。

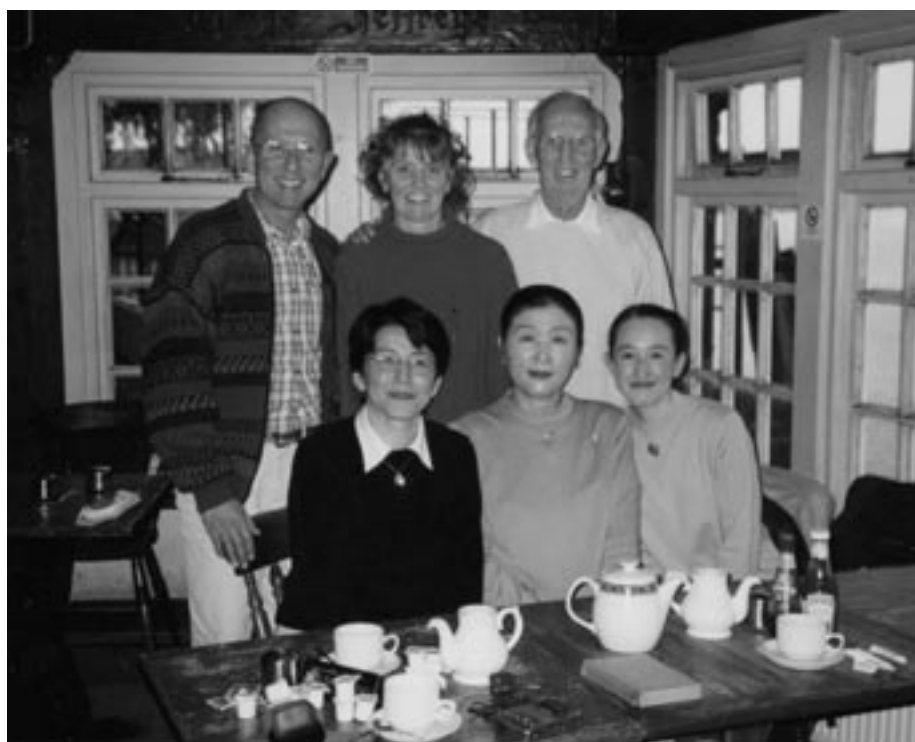
いうまでもなくジョージは、英国スピリチュアリストの重鎮として知られ、現在はアーサー・フィンドレー・カレッジやスウィンドンの成人教育カレッジ、スウェーデンのコリンズ・カレッジで講座を担当しています。（\*ここでの“カレッジ”は、スピリチュアリストを対象にした民間の個人塾のようなもので、日本で言う大学とは内容が異なります。）

彼は、1995年に日本心霊科学協会から招待を受け、一人の霊媒を引き連れて来日し新宿で記念講演会をしています。80人くらいの参加者があったとのこと。ジョージは妻のエリザベスと車を2時間飛ばして、わざわざ私達に会いに来てくれました。

当日は、11時にツーワールズのオフィスで待ち合わせました。ジョージ・クランレー夫妻とは初対面であるにもかかわらず、たいへん打ち解け、リラックスしてお互い話が盛り上がりました。その後、いつものようにロンドンで一番古いといわれるパブで昼食をしました。クランレー夫妻もベジタリアンで、彼は日本に行ったとき食事で苦勞した話をしてくれました。ハブで2時間くらい話を楽しんでから、もう一度オフィスに戻って1時間ほど、スピリチュアリズムに関する踏み込んだ話をしました。

いつもながらトニーは私達にとっても気配りをしてくれ、資料置き場から、創刊号以来のツーワールズの縮小記録版を次々に持ち出して見せてくれました。結局、その日は4時間もの間、本当に和やかで心ふれ合うひと時を楽しむことができました。（\*ただしネイティブでない私達日本人としては、4時間にわたる英語のコミュニケーションは、ほぼ頭の限界に達していました。）





後列左端がトニー・オーツセン、その右がジョージ・クランレー夫妻

話の中でトニーとジョージに、日本で翻訳されているスピリチュアリズム関連の書物のリストを見せ、これ以外にもよい本があったら紹介してほしいと申し出ました。すると間髪をおかずに、2人から嬉しい一言が返ってきました——「シルバーバーチ以外は、みんなラビッシュ（くずみたいなもの）ですよ」。それまでは率直に言って、「果たしてジョージはどの程度のスピリチュアリストなのかしら？どのくらい純粋な実践者なのかしら？」と思っていたので、この一言で彼の内容を知ることができ、ほっとすると同時に喜びが湧いてきました。

その後リストに挙げた一つ一つの書物のコメントをしてくれました。その中で、バーバネルの『これがスピリチュアリズムだ (This is Spiritualism)』と『500に及ぶあの世からの現地報告 (Life after Death)』はとても素晴らしいと絶賛し、『靈訓』『靈の書』『ブルーアイランド』については、内容は素晴らしいが古風な英語であるとの評を述べていました。リストの書物を一通り見てから、翻訳したら

よいと薦めてくれたのは、バーバネルの『現在のスピリチュアリズム (Spiritualism Today)』でした。ただしこの本は絶版になっているので、後日コピーして日本に送ってくれるということになりました。

私達のサークルでは今後、『ラマダンの叢智』『ジュリアの音信』、ハリー・エドワーズの著書の1～2冊、レスリー・フrintの『暗闇からの声』『アンソニー・ボーギアの霊界通信』などを翻訳したいと考えていますが、それらの本についてのさまざまな情報やアドバイスを受けました。

日本からアジア各国へシルバーバーチを普及するための翻訳計画（\*取り敢えずは韓国語・中国語）についても、いろいろな情報をもたらしました。日系ブラジル人のためのポルトガル語バージョンについて質問したところ、「No (なし)」ということでした。英語圏以外の翻訳としては日本語が唯一全巻翻訳ということで、ドイツ語は昔数冊が翻訳されただけで、今は絶版の状態であることが分かりました。

2人から話を聞いているうちに、日本は今や世界で最大のシルバーバーチ大国になったこと、英国以上にシルバーバーチの影響力が及ぶようになっていくことを感じました。昨年SAGBに行ったときは、玄関の書籍販売コーナーにシルバーバーチがずらりと並んでいた（\*おそらく再版したばかりだったのでしょう）のに、今回行ってみると、シルバーバーチは片隅に少し置かれているだけで少々がっかりしました。

英国のスピリチュアリズムの底辺は広いものの、トニーやジョージのようにシルバーバーチの真の価値を理解しているスピリチュアリストは、ほんの一握りに限られるようです。この辺りの事情は日本と大差ありません。ましてやシルバーバーチの教えを忠実に実践に移し、その普及のために人生を捧げるといった人間は皆無に等しいことが分かります。日本と比べて、上限のパワーが感じられません。

シルバーバーチの次のような言葉を思い出してしまいました——「皆さんによる組織的活動は今、一つの難しい、魅力の乏しい局面にさしかかっています。勃興当初（19世紀半ば）の、あの輝かしい魅力も次第に色あせ、方向性が十分に定まっていないうです。」（霊的新時代の到来・188）

英国での先輩スピリチュアリスト達の努力と犠牲があって、現在、アジアの日本でシルバーバーチを手にすることができるようになってきました。それに対する感謝の思いを、日本のスピリチュアリストを代表して2人に伝えました。

アメリカから出発した地上のスピリチュアリズムは、時をへずして英国に中心を移し、大きく力を伸ばしました。その後スピリチュアリズムは、表面上は徐々に衰退しているかのような道をたどることになりますが、その一方で『シルバーバーチの霊訓』を通じての、さらなるレベルアップへの道が準備されてきました。

21世紀、シルバーバーチの教えが世界中に広がり、世界規模で次のスピリチュアリズム・ブームが引き起こされようとしています。そうした時期が、すぐ真近に迫っています。『シルバーバーチの霊訓』が

英語圏から世界中に普及し、それにともないスピリチュアリズムは地球のすみずみにまで大きく展開することになります。そんなスピリチュアリズムの未来を感じた今回のイギリス訪問でした。

最後に、トニーは私達が訪問するたびに、いつも素敵なお土産を準備してくれています。これまでに、トニーがバーバネルの遺品として大切にしていた5冊のアルバムのうち、すでに3冊までもいただいております。「本当に大丈夫なのかしら？」とこちらが心配するほどに、気前よくくれるのです。

トニーからのプレゼントについては、ニューズレターを通じてお伝えしています。バーバネル愛用の大理石の灰皿、編集長としての執務机のペン皿、交霊会の後のティータイムで使ったカップセット、また多くの写真や書籍など——小さなシルバーバーチ博物館・記念館ができそうなほどです。

そして今回、果して私達にくれるお土産は残っているのかしらと思いつつも、やはり期待してしまいました。昼食のときサークルのメンバーからの土産を渡すと、トニーはやおらバッグの中に用意していた土産を取り出しました。今回はバーバネルとシルビアが長年にわたって愛読していたホメオパシーの本でした。バーバネル夫妻が現代医学を嫌って自然療法に頼っていたことは以前お伝えしましたが、その自然療法とは“ホメオパシー”であったことがよく分かりました。背表紙がはがれるほどに繰り返し読んだ本を、プレゼントとして用意してくれました。「やった〜！」と、また心の中で叫んでしまいました。



---

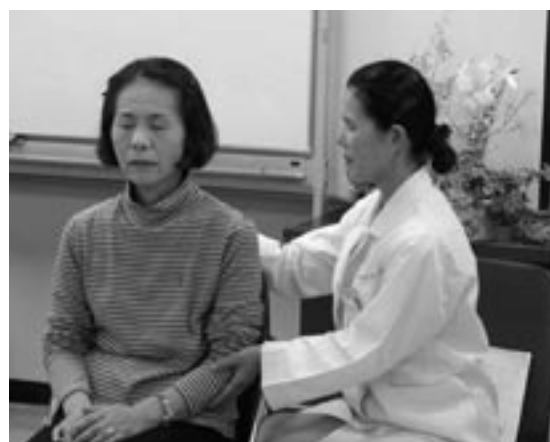
## 日本スピリチュアル・ヒーラーグループからのお知らせ

### 第3回 公開スピリチュアル・ヒーリング開かれる

---

昨年の11月14日、第3回目の「公開スピリチュアル・ヒーリング」を横浜で行いました。今回は、関東地区で初めての開催ということもあり、予想を上回る多くの方々から参加の申し込みをいただきました。抽選の結果、希望者の約3分の1の方に当日参加していただきました。

今回は、30分のスピリチュアル・ヒーリングについての話の後で、合計12名の方に直接ヒーリングを行いました。全体で約2時間という短い間でしたが、日常の喧噪から離れ、静かで穏やかな霊的時間を、皆さんとともに持つことができました。



---

## — 参加された方々の感想の一部をご紹介します —

### ■参加された方の感想

---

- ・神聖な雰囲気にはびっくりしました。
- ・おごそかな静けさの中、ゆったり時間が流れ、温かい波動がとても快いものでした。
- ・自分の手が温かくなり、お腹のところへ手をあてると気持ちが良くなり、ヒーリングを受けている皆さんもこんな感じなのかと思いました。
- ・身体が柔らかなエネルギーに包まれて、目を閉じていると身体の中から浮かび上がりそうな気分になりました。喉・肩などが引かれる感じで、「痛いところが治療を受けているのか」と感じました。穏やかな感じになりました。
- ・涙と鼻水が出て柔らかい気持ちになり、身体が熱くなった。そのままいいんだよと言われている感じがしました。
- ・この場にいるだけでも温かいエネルギーに包まれて、一体感を感じ取ることができました。改めて、この地上で貴重な体験ができたことに深く感謝します。
- ・心温まる空間の中で、高級霊の力の一部を見せていただくことができました。

### ■直接ヒーリングを受けた方の感想

---

- ・なぜか涙があふれて仕方ありませんでした。具合のわるいところはもちろんのこと、心もヒーリングされたように感じました。
- ・やさしい柔らかい布で全身をおおわれたようで、身をゆだねて安心した感覚。そのうち肉体がしっかり強くなる感覚。不動、しっかり芯ができた感じがしました。
- ・とても安らかな気持ちになり、感謝したい気持ちになりました。
- ・一言で、すごいです。説明の途中から気を感じていました。直接ヒーリングを受けるといっそう精妙な感じで、白いもやに包まれた中で、細かな波動を感じました。右目の眼球が白い真綿に包まれ快い波動に包まれる感じで、治療されてると実感しました。
- ・生まれて初めて、愛されていることを感じました。



---

スピリチュアル・ヒーリングは、目には見えない霊界からの大きな配慮によって準備されます。公開ヒーリングに足を運ぶようになるということも、決して偶然ではなく、霊界からの導きによるものです。それは霊界と物質界が調和すると、いかに素晴らしいことが実現するかを知っていただくためです。そのために公開ヒーリングの場に連れて来られたということです。そして公開ヒーリングの場で体験された霊界との接触は、その後もずっと続くことになります。参加者の皆さんが各地域・各家庭に帰られた後も、そのパワーの影響は続きます。

わずかな時間でしたが、本物のスピリチュアル・ヒーリングがどういうものかを、皆さん方に実感していただけたことを本当に嬉しく思います。私達はこれからも「遠隔ヒーリング」や「公開ヒーリング」を通じて、本物のスピリチュアル・ヒーリングを多くの方々に紹介してまいります。

次回の「公開ヒーリング」は、5月頃に関東方面で行う予定です。詳しくは、日本スピリチュアル・ヒーラーグループのホームページをご覧ください。また次回（4月号）のニュースレターでも、お知らせいたします。







## 『ホリスティック健康学・ホリスティック栄養学入門』

“21世紀の新・ベジタリアン生活”のすすめ

ホリスティック栄養学研究所 発刊

本書のタイトルを見ると、スピリチュアリズムとどのような関係があるのかと思われるかも知れません。この本には、ホリスティック医学と現代栄養学に関するかなり専門的な内容が含まれています。それだけでなく本書は、「スピリチュアリズム」と「スピリチュアル・ヒーリング」のための目的も併せて持っています。

つまりこの本は——「スピリチュアリズム」「スピリチュアル・ヒーリング」「ホリスティック医学」「現代栄養学ならびに栄養療法」という4つを対象として書かれているということです。それぞれの目的についてもう少し述べると、次のようになります。

### ①スピリチュアリズムに対して

シルバーバーチは——「肉体は霊の宿る宮であり、大切に管理されなければならない」と言っています。肉体を大切に管理し手入れすることは、スピリチュアリストとしての務めなのです。肉体の管理とは、具体的には正しい食生活・適度な運動・適切な休養のことです。本書はそのうちの「正しい食生活」について述べています。スピリチュアリストとして、しっかり肉体を管理するうえでの食生活改善の具体的な指針を示しています。「霊主肉従」の努力はスピリチュアリストとしての必須の実践項目ですが、「食生活の改善」はその一つと言えます。

また、スピリチュアリズムは“肉食”に反対します。“菜食主義”を目指すことは、スピリチュアリストとしての当然の義務であり努力目標と言えます。しかし大半の人々は、これまで肉食中心の食生活をしてきました。それをいざ菜食にしようとする、誰もが迷ってしまいます。具体的にどのようにしたらよいのかが分からないのです。それでは食生活改善

というチャレンジは成功しません。

本書は“菜食主義”を実践するための具体的な方法を示しています。現代社会でも無理なく、そして楽しく“ベジタリアン”になることができます。そのための指南書です。

### ②スピリチュアル・ヒーリングに対して

シルバーバーチは、自分自身が自堕落な生活をしておきながら、何でもスピリチュアル・ヒーリングに頼ればよいという姿勢を批判しています。スピリチュアル・ヒーリングを受けるについては、最低限の「自己努力」をする必要があります。病気の原因が純粋に物質次元にある場合には、ヒーリングよりもまず先に、自分自身でそれを取り除く努力をすべきです。

間違った食事が原因となって病気を引き起こしているケースは意外と多いのです。少し食事に気をつけただけで、病気が軽くなることもたびたびあります。最低限の自己努力（セルフヒーリング）をしようとする意欲のある方に対しては、私達「日本スピリチュアル・ヒーラーグループ」は喜んでスピリチュアル・ヒーリングを行います。そのような方の依頼を拒むことは決してありません。正しい自己努力によって、スピリチュアル・ヒーリングの効果はもっと高まります。ヒーリング後の病気のぶり返しも起こらなくなります。

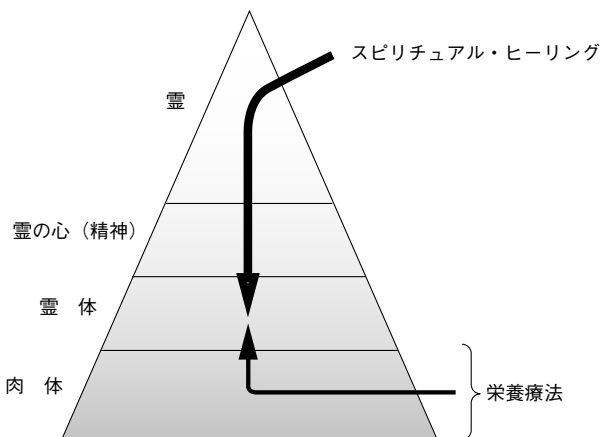
当サークルではこうした意味から、スピリチュアル・ヒーリングを受けようとする方には、まず自己努力をお願いしています。「正しい食生活」に切り替えるということは、重要な自己努力の一つです。本書はそのための指導書となっています。

### ③ホリスティック医学に対して

20世紀の後半、これまでの唯物医学（現代西洋医学）とは異なるホリスティック医学という新しい医学が登場しました。ホリスティック医学は、21世紀の中心的医学になると言われています。

しかし、この新しい医学は、現段階ではまだまだ多くの未熟な点・未解決の問題を抱えています。例えばホリスティック医学では、人間の構成要素として「霊」の存在を認めますが、具体的にはそれが何であるのかが分かっていません。「心」と「霊」の違いも不明瞭です。当然、「霊」を含めた医学理論体系を確立することができずにいます。そのために、ホリスティック医学自体が行き詰まり状態に陥っています。本書は、そうしたホリスティック医学の医学理論体系化のための新しい方向性を示しています。

人間は、霊・心・霊体・肉体から成り立っている以上、それらをすべてトータル的に取り扱ってこそ「真のホリスティック医学」と言えます。本書は、トータル的な人間観を土台としたホリスティック医学の新しい医学モデルを描いています。併せて、頂上部（霊）からの治療法としての「スピリチュアル・ヒーリング」と肉体次元のトータルケアとしての「栄養療法」を組みこんだ治療体系の必要性を述べています。



### ④現代栄養学と栄養療法に対して

現代人は、間違った食生活によって栄養状態を悪化させています。これが肉体を劣化させ、結果的にさまざまな慢性病・成人病を引き起こすようになっています。慢性病の大きな原因は、ストレスと間違った食事です。アトピー・アレルギーをはじめ、ガン・心臓病・脳卒中・糖尿病などは、ストレスと間違った食事が主要な原因となっています。

スピリチュアル・ヒーリングを依頼される方々の場合にも、間違った食事が原因となっているケースが非常に多く見られます。そうした方々が厳格な食事改善に取り組まれると、かなり症状が軽減します。「栄養療法」は今日では、最新の医学の一分野として大きな影響力を持ち始めています。本書では、現代栄養学の最新情報を紹介し、それに基づく栄養療法について詳しく取り上げています。

本書は、こうした4つの目的を同時に果たす内容となっています。その意味で、これまではないたいへん画期的なものと言えます。スピリチュアリズムの実践（菜食主義・肉体管理）の指南書として、スピリチュアル・ヒーリングの自己努力（セルフヒーリング）の手引書として、ホリスティック医学の総合理論化の方向性を示す指針として、また栄養療法のガイドとして、ぜひご利用ください。この本は、ある大学のオープンカレッジの“ホリスティック健康学・栄養学”のコースでテキストとして使用されています。

なお、具体的な調理のための“レシピ集”も作成しています。関心のある方は、ホリスティック栄養学研究所までお問い合わせください。



## 〈問い合わせ・申し込み先〉

ホリスティック栄養学研究所  
〒441-3141 豊橋市大岩町字北山468-1

TEL 0532-41-8806

FAX 0532-41-8257

※本書は心の道場のスタッフによる執筆で、ホリスティック  
栄養学研究所とサークルは同一住所になっています。

## 〈価格〉

・『ホリスティック健康学・ホリスティック栄養学入門』

“21世紀の新・ベジタリアン生活”のすすめ

2,835円(税込み)

・ホリスティック栄養学の知恵を生かした  
『ヘルシークッキング』 1,050円(税込み)

※価格が少々高めですが、547ページに及ぶ大部ですので  
ご了承ください。

■本書の内容の一部は、ホリスティック栄養学研究所のホームページに掲載されていますのでご覧ください。

ホリスティック栄養学研究所

<http://www.5f.biglobe.ne.jp/hni/>

トニー・オーツセン編

### 『シルバーバーチの霊訓シリーズ』（復刻版）完成！

10年ほど前から絶版状態となっていたトニー・オーツセン編集の『シルバーバーチの霊訓シリーズ（3巻）』が、今回の『霊的新時代の到来』をもって、やっと完成いたしました。

潮文社12巻シリーズ、ハート出版シリーズとは趣を変え、1つの交霊会の内容をそのまま掲載する形での本シリーズは、交霊会の様子をありありと伝えています。また各章ごとにシルバーバーチの祈りが載せられているため、読者は、より臨場感・実感を持って交霊会の雰囲気に入ることができます。

#### ・スピリチュアリズムによる霊性進化の道しるべ

(A Voice in the Wilderness)

#### ・地上人類への最高の福音 (The Seed of Truth)

#### ・霊的新時代の到来 (The Spirit Speaks)

※いずれも価格は、2,300円(税込み)です。

---

明けまして、おめでとうございます。

霊界の道具として、スピリチュアリズム普及のために貢献できることは、スピリチュアリストのみに与えられた最高の人生です。霊界の道具である以上、自分なりの力みも悩みも不要です。自分の心と動機を正すだけで、能力の足りなさもカバーされ、何十分もの大きな働きができるようになります。そんなシンプルで素晴らしい人生を送れることに、日々感謝いたしております。

本年も等しく霊界の導きを受けて、スピリチュアリズムの道へ導かれた皆様方とともに、励まし合い、力を合わせて歩んでまいりたいと決意を新たにしております。

新しい年が皆様にとりまして、いっそうの貢献と霊的実り多き年となりますよう、お祈り申し上げます。



*Spiritualism Circle*  
***Kokoro no Dojo***